

小矢部市

ちゅうしんきよてんさいせい

中心拠点再生地区

(富山県小矢部市)

- 計 画 期 間 平成 27 年度～令和元年度
- 面 積 52.5 h a
- 交付対象事業費 3,706.4 百万円
- 市人口 28,795 人

ポイント

中心市街地における公共交通と連携した都市機能集約による賑わいの創出

地区概要

北陸自動車道や東海北陸自動車道、能越自動車道の高速道路が交差するほか、鉄道が市域の東西を通過するなど、交通の要衝であることから県の西の玄関口としての役割を担っており、鉄道駅を中心とした市街地となっている。

目 標

老朽化した公共施設の中心市街地内部での集約・合築により、石動駅を中心として、多くの人々が集う賑わいのある中心市街地を再構築する。

指 標

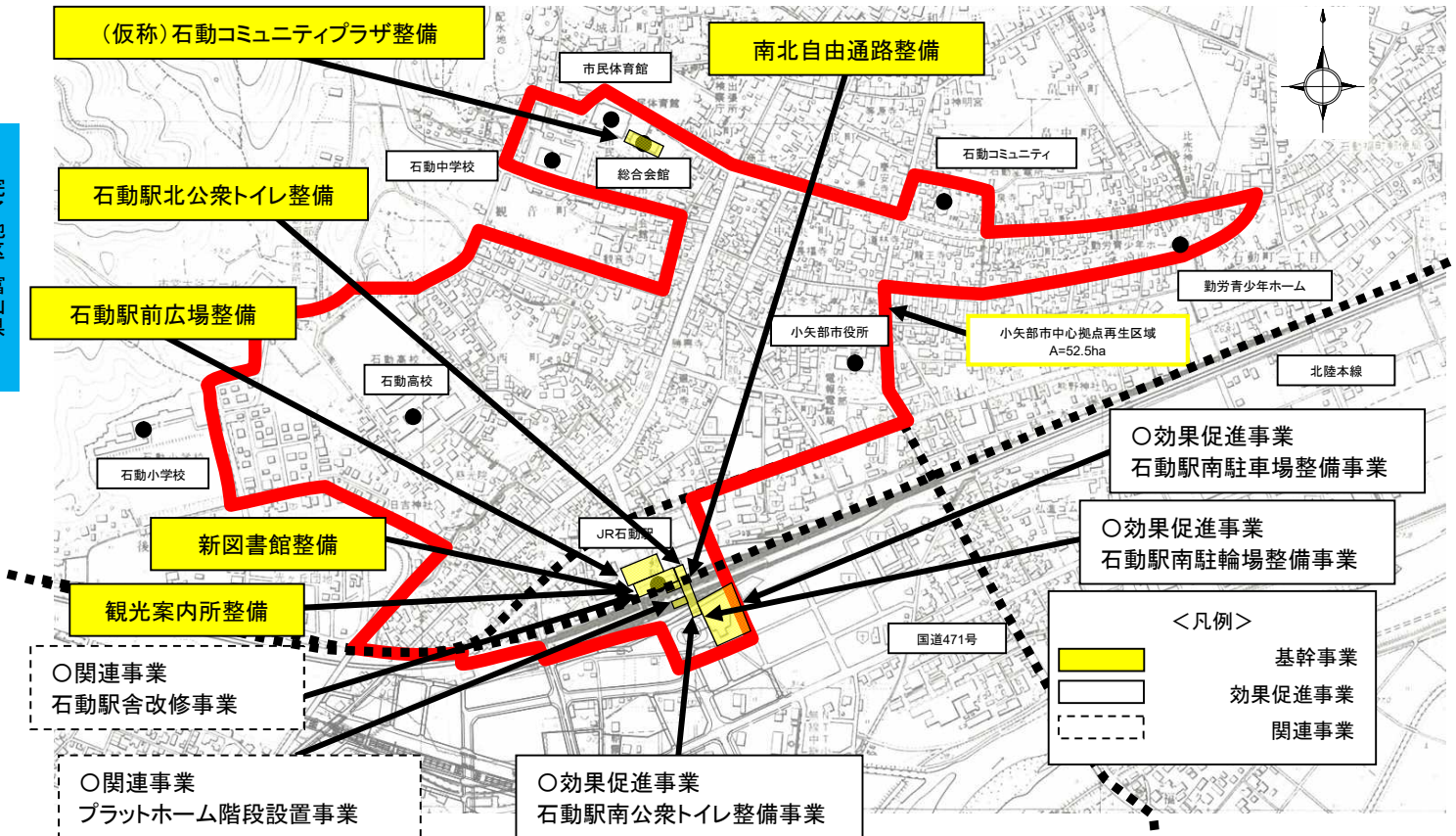
老朽化した公共施設の再編を行い、図書館を鉄道駅との合築により、駅利用と連携した中心市街地の賑わいの再生を目標とした。

市民図書館入館者数	57,957 人/年 (H25)	→	112,597 人/年 (R2)
コミュニティ施設利用者数	51,962 人/年 (H25)	→	22,421 人/年 (R2)
中心市街地通行者数	265 人/日 (H26)	→	275 人/日 (R2)

事業内容

基幹事業 (3,706.4 百万円) → 南北自由通路整備(幅員 4m、延長 115m)、石動駅前広場整備(2,200 m²)、石動駅北公衆トイレ、(仮称)石動コミュニティプラザ整備(地域交流)、観光案内所(観光交流)、新図書館整備(教育文化)

提案事業 (0 百万円) → 提案事業なし



地区の現況と課題

地区の現況

本市は、北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道の高速道路が交差し、また、あいの風とやま鉄道が市域の東西を通過するなど、交通の要衝であり、県の西の玄関口としての役割を担ってきた。

平成 27 年 3 月には北陸新幹線の東京～金沢間の開業、同年 7 月にはアウトレットモール開業により、交流人口の増大や地域産業の活性化等が期待されており、また平成 29 年 3 月には石動駅南での土地区画整理事業が完成したことから、石動駅を中心に南北を一体化した中心市街地の再構築が望まれている。

地区の課題

現在の小矢部市は、昭和 37 年に石動町と砺中町の合併により誕生し、石動、津沢の両市街地を中心として発展してきた。

近年、石動市街地はモータリゼーションの進展によるショッピングセンター、公共施設の郊外化等に伴って、かつての賑わいがみられない状況となっている。また、人口減少、少子高齢化により商店舗の閉鎖、撤退が相次ぎ、中心市街地の空洞化が進み、都市としての求心力も低下している。



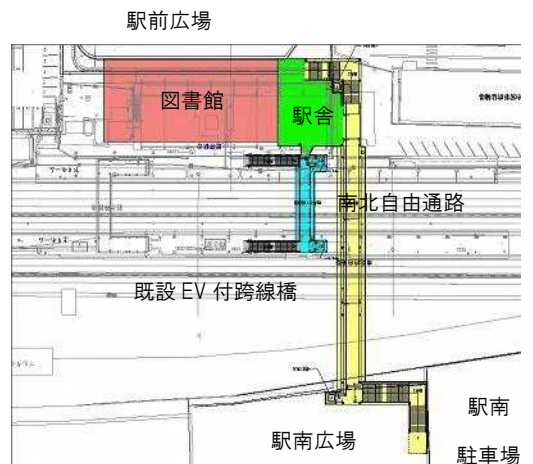
▲石動駅の現況

計画策定プロセス

石動駅周辺整備

平成 20 年度より着手した土地区画整理事業により、石動駅南広場を含む、駅の南側の整備が平成 28 年度に完了した。

これに先立ち、南北自由通路等により、駅南側からの駅利用者の利便性の向上や南北市街地の一体化による駅を中心とした街づくりにつなげるために、平成 24 年度に「石動駅周辺整備計画(素案)」を示し、パブリックコメントを実施するなどして、「石動駅周辺整備計画」を策定した。



▲石動駅周辺整備計画図

新図書館整備

平成 26 年 4 月より「小矢部市民図書館整備計画検討委員会」を設置して、新図書館が目指すべき“基本理念”“整備基本方針”“施設計画”“管理運営体制”などについて検討を行い、同年 10 月に報告書が提出された。その報告書を参考に、「小矢部市民図書館整備基本計画」を策定した。



▲新図書館整備計画検討委員会の開催風景